

事例仕分けにおける論点について（論点整理）

1. 班長会議による協議の結果、類型を変更する事例

（考え方）

言葉や態度等にかかる事例については、「障害のある人にとってつらい事、いやな事等であり、なくして欲しい事例」あることから、類型4の定義を見直し、類型を変更する。

○事例番号47 （P4）

本人を子供扱いするヘルパーがいる。

○事例番号51 （P5）

福祉関係者から「親の育て方の問題なのに子どもが障害者にさせられてかわいそう」と言われた。

○事例番号150 （P14）

病院等で医療関係者に子供扱いされた。（言葉遣い）

○事例番号158 （P14）

耳鼻科の医者には「おし」「つんぼ」など差別用語を使う人がいる。

○事例番号160 （P14）

医師から、障害のある子を持つ親に対して、「知恵遅れ、これ以上良くなることは見込めない」など心ない言葉があった。

○事例番号197 （P18）

ある店舗で店員が、他の客には敬語を使うが、自分が行くと言葉使い等、子ども扱いされる。

○事例番号243 （P21）

居酒屋で、ほかの客が通りにくいスペースに車いすで座っていると、店員から「何時までいるのですか」と聞かれ、腹が立った。

○事例番号270 （P24）

就業していた頃、職場の上司などから、数字がわからないとか仕事が遅いといわれ、どなられたりした。

○事例番号271 （P24）

就業していた頃、職場の同僚などから、ひどくおこられた。

○事例番号311 (P27)

就学時に、教育委員会から、医療ケアが必要な子供が通える学校がないと言われた。

○事例番号316 (P28)

小学校入学時に、教育委員会から、障害程度の重い子供の学ぶところが特別支援学校しかないと言われた。

○事例番号319 (P28)

中学校で、特別支援学級ではなく普通学級に行きたいと要望したが、「担任になる人なんていない」と言われた。

○事例番号331 (P29)

アスペルガーと診断され学校に話したが、校長に「こんな子は初めて見た。うちは養護学校じゃない」と言われた。ヘルパーをつけ頑張って登校させたが、ヘルパーも知識が薄く「わがまま、甘えてる」と言われた。本人は学校を「ドキドキする、怖い」と言っている。

○事例番号332 (P29)

毎年、担任が変わるので同じ説明をするのに疲れる。理解してくれない先生もまだ多い。校長など年配の先生方の理解が薄く、「頑張れば大丈夫」「一般の子と同じように努力しましょう」と言われる。

○事例番号334 (P29)

人権教育を行う指定校に通っているが、いじめはある。先生に相談しても「これくらい乗り越えていくのが当たり前」と言われた。一度傷つくと忘れない発達障害児の知識があるとは思えない。

○事例番号472 (P41)

不動産業者で、最初はニコニコ笑顔で対応されたが、障害がわかると態度が急に変わった。

○事例番号475 (P42)

不動産業者の物件一覧表に「障害者不可」と書いてある物件があった。理解不足だと思う。

○事例番号521 (P46)

外食をしていた時、見知らぬ人が、自分に千円あげようとしたので、断った。失礼だと思った。

○事例番号558 (P49)

ある団体の活動に参加中「目も耳も聞こえないのに何ができるの」と障害当事者からの差別的発言があった。

○事例番号566 (P49)

聴覚障害があるが、一生懸命コミュニケーションを取ろうとしても、周りがめんどくさがって壁を作られることがある。

○事例番号596 (P52)

習い事をやめさせたときに、同じ習い事をしている子の親から「普通の子を持つ親はいろいろ考えることがあって大変なのに、障害を持っていると、その子に合わせて育てられるからいいね」と言われた。

○事例番号597 (P52)

同級生の親から「人に噛みついたりしても発達障害だからって言えるからいいよね」と陰口を言われていた。

「発達障害って言えば何でも許されると思ってる」と言われた。

○事例番号615 (P54)

タクシーを利用している際、「障害者が飲みに行くのか」とか、「税金で生きているだろう」といわれた。こうした理不尽なことを解決できる仕組みがほしい。

○事例番号625 (P54)

「障がいをもっているひとには優しく」と教育しているのか分からないが、お金をくれる人がいる。

また、逆に「なんで障害の人が居酒屋に?」「年金もらって遊んでるの?」といった声、目線もある。普段いかない店に行くと、周りの目線を感じる。

○事例番号628 (P55)

親戚に「障害者が身内にいて、ジロジロ見られるのが恥ずかしい」など言われたことがある。

平等でいたいのにいられない。

○事例番号636 (P55)

身体的な特徴や障がいによる特徴的な言動や行動などについての悪口を言われたり、あからさまに避けるような行動を取られたりすることがある。

特に、子どもは人の悪口を言う傾向にあり、大人の方は関わらない

ように感じる。

それによって、多くの障がいのある方が傷ついているように感じる。

○事例番号639 (P56)

うつ状態で動けなくなる時に仕事や働く事が出来なくなる時があり、それを親から「ふゆーさー」(怠け者)と思われるのがきつい。

○事例番号640 (P56)

障がい者の自立について話をしていた際、「どうせ税金で喰ってんだろ」と言われた。

必要な社会保障、正当な権利なのに、障がい者に対する無理解が根強くあること。

また、障がい者にとって、社会の一員としての暮らしや生き方についての受け皿がないことをくやしき思うことが多い。

2. 班長会議において類型を整理した事例

○事例番号54 (P5)

グループホームの入所を断られた。(類型3→類型4へ)

3. その他

(1) 類型3の事例として適当ではないと思われる事例

○事例番号246 (P22)

自動車教習所に通う際、足を使わない手動式の車に対応する教習所が限られている。さらに対応車が1台だったため他の人が乗っていると使えない。学校がエレベーターがないので2階に登れない(教室(学科)での授業が受けれない)。

送迎もバスで車いすが乗せれないため、誰かに送ってもらわなければならなかった。

○事例番号554 (P48)

自動車運転免許取得時、自動車運転装置付き車両を備えた教習所が限られている。

(2) 種類の異なる事例

○事例番号136 (P12)

タクシーで障害者手帳を見せても割引できないと言われたことがある。
(類型4)

○事例番号409 (P36)

タクシーを短距離利用したときに、障害者割引の利用を拒否された。
(類型1)

(3) 障害を理由とする事例には当てはまらないと思われる事例

○事例番号325 (P28)

義務教育について、子供が体調を崩して、長期入院となった。出席日数が足りず、卒業できないと思ったが、逆に卒業となった。親としては、しっかりと教育を受けさせたいので、学校が卒業させたことに疑問がある。(類型1)

○事例番号579 (P51)

公営住宅に住んでいるが、部屋の前にごみが捨てられていたり、ポストにたくさん物が入れられていたり、壊されたこともある。(類型1)

(4) 種類の分類を検討して欲しい事例

○事例番号480 (P42)

親からの自立が必要と思うが、住まいを借りる場合、保証人がさがせない。(類型1)

○事例番号501 (P44)

地上デジタル放送移行後のテレビ放送において、字幕放送もできるが、沖縄のテレビ番組の多くは県の広報番組であるうまんちゅ広場を除いては、字幕放送に対応していない。(聴覚障害がある場合)(類型3)

○事例番号518 (P45)

障害をもっている子供には財産をあげないという事などがある。
(類型1)

○事例番号519 (P45)

障害者は何を言われても常に我慢している。(類型1)

○事例番号598

数年前に、アスペルガー＝猟奇的犯罪者という報道があった。社会の偏見は強く、障害があることを隠さざるを得ない。

発達障害というより、自閉症という方が気が楽。(類型1)

(5) 班会議において類型分類の確定出来なかった事例

○事例番号499 (P44)

口話だけでは理解ができない。例えば「卵」と「煙草」は口の動きを見ても区別できない。会社の中で「ゴミ」と言われて書類を捨てようとしたら「コピー」の間違いだったという話も聞いたことがある。手話だと間違えることがないので、必要だと思う。(類型3、4)

○事例番号505 (P44)

触手話のできる人が少ない。(盲ろう者) * 触手話・・・両手を使って手話を使う相手の両手に軽く触りながら触読するコミュニケーション方法
(類型3、4)

○事例番号529 (P46)

犬と散歩をしていて、公園のベンチで休憩していると、誰か近づいてきたのを感じたので耳が聞こえない身振りをした。その後、犬をなでているようだったが、しゃべれないので黙っていたら何か渡された。確認すると糞だったので捨てたが、再度渡されとてもいやな思いがしたので、謝って立ち去ろうとしたが、ずっとついてきて威嚇されたり、石を投げられたりした。(よくわからないが、小学校の高学年かと思う。)(盲ろう者) (類型1、4)

○事例番号530 (P46)

道を歩いていると何度も自転車で遮られるようないじめのような経験をした。(盲ろう者) (類型1、4)

○事例番号538 (P47)

歩いているとき、10代位の人から杖にガムをつけられた。(類型1、4)

○事例番号539 (P47)

意図的に自転車を前に置かれ、ぶつかったことがある。(類型1、4)

○事例番号540 (P47)

視覚障害があるが、知らない男に、変なところに連れ込まれそうになった。
(類型1、4)

○事例番号542 (P47)

視覚障害があるが、雨降りの時、水たまりがあるからと「こっち、こっち」と誘導され、畑の中に連れて行かれた。(類型1、4)

○事例番号555 (P49)

スーパーの店員等が、話題の主体である自分(障害当事者)ではなく、そばに居る介助者に話しかける。(類型1、4)

○事例番号567 (P50)

聴覚障害があるが、人から話しかけられても、聞き取れない場合があるため、無視されていると勘違いされて、人間関係が壊れることがある。(類型1、4)

○事例番号594 (P52)

(県外での事だが)「自閉症の男の子が、集団下校していた女子小学生全員に挨拶をしたら、不審人物として逮捕された。自閉症と説明しても聞いてもらえず、誓約書を書かされた。」という事を聞いた。(類型1、4)

(6) 未分類事例

○事例番号557 (P49)

介護保険移行後、移動支援が無く、家族もいないので困っている。

4. 追記及び変更事項

○事例番号456

「*大規模な場合。」という文言を追記。

○事例番号497

「首里城やひめゆりの塔」→「大きい歴史的観光施設」へ変更。